

2016年4月17日川越教会

## 屠られた小羊

加藤 享

【聖書】ヨハネの黙示録5章1～14節

またわたしは、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。表にも裏にも字が書いてあり、七つの封印で封じられていた。また、一人の力強い天使が、「封印を解いて、この巻物を開くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げるのを見た。しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開くことのできる者、見ることのできる者は、だれもいなかった。この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見当たらなかったの、わたしは激しく泣いていた。すると、長老の一人がわたしに言った。「泣くな。見よ。ユダ族から出た獅子、ダビデのひこばえが勝利を得たので、七つの封印を開いて、その巻物を開くことができる。」

わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老たちの間に、屠られたような小羊が立っているのを見た。小羊には七つの角と七つの目があった。この七つの目は、全地に遣わされている神の七つの霊である。小羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から、巻物を受け取った。巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、豎琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖なる者たちの祈りである。

そして、彼らは新しい歌をうたった。「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ、彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは地上を統治します。」

また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。天使たちは大声でこう言った。「屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。」

また、わたしは、天と地と地の下と海にいるすべての被造物、そして、そこにいるあらゆるものがこう言うのを聞いた。「玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように。」四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

【序】天変地異の恐ろしさ

去る14日夜に突然発生した**熊本の大地震**で、またまた大勢の方が命を失い、怪我をし、家を失い、生活を破壊されました。21年前の**阪神大震災級の地震**だ

そうです。あの時は、長男の誠一家が神戸教会にお仕えしていましたが、奇跡的に家族全員無事でした。私たち夫婦は、30年お仕えした札幌教会を3月末で辞任し、宣教師としてシンガポールに出発する準備の最中でした。もしも誠家族の一人でも犠牲者が出たら、その対応で出発できなかったでしょう。泉と子どもたちが無事北海道に避難して来たので、私たちは予定通り5月にシンガポールに赴任出来ました。**人生を一変させてしまう天変地異**が、何時起こるか知れません。恐ろしいことです。渦中にある方々の上に、神のお守りを祈ります。それにしましても、毎週お祈りしている**東日本大震災**は、死者行方不明者が21865人と規模が違います。何と恐ろしいことでしょうか。

### 【1】 迫害の中で示された黙示

さて、私たちは4月5月の9回の日曜日にかけて、聖書の最後の書**ヨハネの黙示録**を学び始めました。**主イエス・キリスト**は、**十字架の死**を遂げられた三日後に**復活**され、40日にわたり弟子たちにご自身を現し、弟子たちが全世界に出て行って福音を宣べ伝えることが出来るように、彼らの**信仰を確立**させて天に戻っていかれました。それから10日後、集まって祈り続けている弟子たち一人一人に、天より**聖霊**が豊かに注がれて、彼らは**福音**を力強く**語り始めた**のでした。西暦30年頃のことです。

弟子たちの宣べ伝えるイエス・キリストの十字架の死と復活の福音は、先ずユダヤ教から**迫害**され、またローマの官憲からも、治安を乱す者として取り締まりを受けるようになりました。しかしエルサレムから散らされた弟子たちは、各地に出て行って、臆することなく福音を宣べ伝えたので、世界帝国**ローマの各地**に福音は広がっていきました。

やがてローマ皇帝が自分の権威を高めるために**皇帝礼拝**を打ち出すと、それを拒否するキリスト教徒は、国家から厳しく迫害されるようになりました。西暦60年代の皇帝**ネロ**の迫害で、ペトロ、パウロも殉教の死を遂げました。更に西暦90年代の終わりには、皇帝**ドミチアヌス**によってネロ以上の迫害が起りました。その時この黙示録の著者**ヨハネ**は流刑になり、地中海の小島**パトモスの牢獄**に投獄されていたようです。(黙示録1：9)

黙示録は「**イエス・キリストの黙示**」という言葉で始まります。それは「**神**がキリストにお与えになり、**キリスト**が天使を送って僕**ヨハネ**にお伝えになった黙示」です。その黙示がヨハネにどのように示されたか。1章10節以下です。「ある主の日のこと私は**霊に満たされていた**が、後ろの方で**ラッパ**のように

響く大声を聞いた」「**あなたの見ていること**を巻物に書いて七つの教会に送れ」

ヨハネは、**示された黙示**をしっかりと書き留めて、**七つの教会**に宛て送りました。それが**2章～3章**です。当時の諸教会の長所欠点が示されていて、今日の私たちにとっても大変参考になります。続いてヨハネは、**天に於ける神礼拝**の有様を示されました。それが**4章**で、先週山下先生と学んだ光景です。

**中央に神の玉座**があり、その周りを**四つの生き物**、獅子、若い雄牛、人間の顔を持つ生き物、空を飛ぶ鷲のような生き物が取り囲み、昼も夜も絶え間なく**歌い**続けています。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方」

そしてその外側を**24人の長老たち**が取り巻き、**ひれ伏して**世々限りなく生きておられる神を礼拝し、自分たちの冠を、玉座の前に投げ出して、**賛美**しています。「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、御心によって万物は存在し、また創造されたからです。」 **礼拝**とは、世界を支配される全知全能の主なる神を囲み、自分たちの冠を神の御座の前に投げ出して賛美を捧げることが**中心**なのですね。

## [2] 泣くな 見よ

続いて今日の**5章**です。玉座に座っておられる神が、**右手に巻物**を持っておられます。表にも裏にもびっしり字が記されています。神の右手は**権威と祝福の手**ですから、神の豊かな祝福が記されているに違いありません。しかし七つの封印で閉じられています。数字の七は完全数ですから、完全に封じられていて、おいそれとは**開くことが出来ない祝福の巻物**です。

すると一人の力強い天使が大声で告げるのが見えました。「**この巻物を開くにふさわしい者はだれか**」。ところが誰も現れません。天にも地にも、地の下にも、この巻物を開くことも見ることも出来る者は誰もいないのです。神がこれから行おうとされている**権威ある御業**の巻物が、開かれないままだとすると、今の世界が更に悪くなりながら、ずっと続いていくこととなります。

野心を抱く支配者たちが自分のことばかり考えて**邪悪な権力**を振るい、ぶつかり合っています。正義が踏みにじられ、正しい者が迫害されています。弱い者・小さな者が虐げられ続けています。戦争・破壊・飢饉・搾取によって、来る年も来る年も大勢の人が命を奪われていきます。悪い者たちが入れ替わり立

ち代わり勝ち誇っていく世界が続くのならば、**将来に希望は有りません**。

この全世界を**極めて良いもの**として創造された神が、人間の罪の故にこのようになってしまった世界を、どのように**締めくくってくださる**のでしょうか。巻物を開いて良く読み、**世の終わりに**しっかりと**対応**していかなければならないのに、これでは自分たちは皆滅んでしまう。大変です。ヨハネは**激しく泣き続けました**。すると長老の一人が声をかけてくれました。「泣くな。見よ。ユダ族から出た**獅子**、**ダビデのひこばえ**（切株から生え出た新しい芽）が勝利を得たので、七つの封印を開いて、その巻物を開くことができる」

そしてヨハネは、礼拝の輪の中心、神の玉座近くに、**屠られたような小羊**が**立っている**のを見ました。小羊には七つの角と七つの目があります。角は強大な力、目は知識・知恵、即ち神の力、知恵を備え、**神の霊そのものである小羊**が進み出て、神の右の手から巻物を受け取ったのです。それを見て、神の御座を囲む四つの生き物と24人の長老たちが、金の鉢に一杯に入っている**香**、即ち彼らの**祈り**を捧げてひれ伏し、**新しい歌**を歌い始めました。すると**大勢の天使**も現れ、更に天と地と海にいる**全ての被造物**も集まってきて、長老たちを囲んで、神と小羊を誉めたたえたのでした。

こうして神の右の手から巻物を受け取った小羊が、封印を一つ一つ開いて、神の御心、**歴史の終局**を明らかにしていく内容が、**6章**から始まります。

### 【3】巻物を受け取った小羊

さて**5章の中心**は、**神の御手から巻物を受け取った小羊**、神を礼拝していた**全ての者が祈りと賛美を捧げた小羊**ですね。6節に「**屠られたような小羊**」と記されています。口語訳・新改訳では「ほふられたとみえる小羊」詳訳では「かつて殺されたことのあるような小羊」と訳されています。

主イエスは十字架に磔られ、死の苦しみを6時間味わい尽くして息を引き取られました。秘かに信じていた最高法院議員ヨセフとニコデモが、丁重に自分の墓に葬りました。しかし三日目の朝、主は墓から復活して弟子たちにご自身を現して、彼らの信仰を復活させられました。驚き恐れる弟子たちに**手と脇腹の傷痕を見せて**、まさに十字架に磔られた自分であることを示しておられます。折悪しくその場に居合わせなかったトマスが、「指を釘痕に差し込んでみなければ、信じられない」というと、次の週にはトマスの前に立って、「あなたの手を伸ばし、わたしの脇腹に入れなさい」と語りかけておられます。まさに**復活さ**

れた主イエスは **屠られた傷痕を身に負う神の小羊**です。

**救いをもたらす小羊**の由来は、旧約聖書のモーセの時代に遡ります。大飢饉を避けてエジプトに移住したイスラエルの民は、次第に奴隷扱いされるようになりました。故国のカナンに戻る許可を得ようと国王に願い出ましたが、許可されません。すると神は**傷の無い小羊**を屠って、その血を家の入り口の柱に塗るようにお命じになりました。そしてその夜にエジプト中の家の**初子が皆死ぬ**という裁きを下しましたが、小羊の血が入り口に塗られているユダヤ人の家は、**神の裁きが過越して**守られたのです。国王はあわててユダヤ人の国外退去を命じ、民はエジプトを脱出できました。以来**過越祭**が民族にとって一番大事な祭りとなりました。その中心は、各家庭で**傷の無い小羊を屠ること**でした。

主イエスはこの過越祭の最中の夜に逮捕され、翌日金曜日の朝に十字架につけられ、その夕方に墓に葬られ、日曜の朝に復活されました。まさに汚れの無い命と引換に、**血をもって**イスラエルの民を救い出した小羊として、主イエスは十字架に付いて死んで下さったのです。パウロも言っています。「**キリストがわたしたちの過越の小羊として屠られたからです**」(1コリント5:7)

それにしても長老がヨハネに告げた言葉は「ユダ族から出た**獅子**、**ダビデのひこばえ** (切株から生え出た新しい芽)」でした。これが旧約聖書の語る**神のメシア像**です。**百獣の王ライオン**とか**最強の王ダビデ**の再来ですね。ところが神が右手の巻物をお渡しになったのは、十字架に黙って磔にされて死んでいかれた**イエスという小羊**でした。それはイザヤの預言「**苦難の僕**」(53章)の**実現**に他なりません。先程交読文として、ご一緒に読みました。

しかもこの小羊は屠られたのに**立っている姿**をヨハネは見ています。即ち死んで墓に横たえられたにも拘らず、墓から**復活して**弟子たちの前に**立ち**、彼らの信仰を復活させた**神の小羊イエス**なのでした。そこでヨハネは普通の小羊 **amnos**ではなく **arnion**という特別な語を黙示録で繰り返し 29 回使っています。

黙って屠られ、流された血を家の入り口に塗られることによって、その家の初子の命を守り、イスラエル民族をエジプトから救い出す働きをした小羊——主イエスは、イスラエルの民だけでなく**世界の全ての人**を罪の滅びから救い出すために、全ての人を受けるべき裁きを我が身に引き受けて、十字架について**贖いの死**を遂げて下さった**神の小羊**なのです。

### 【結】 祈りを香と呼ぶ信仰

屠られた傷を身におびた小羊が、玉座の神の右手から巻物を受け取った時、四つの生き物と 24 人の長老は、**豎琴**と香のいっぱい入った**金の鉢**とを持って小羊の前にひれ伏しました。**香は彼らの祈りである**と記されています。豎琴をかなでながらの賛美と共に、礼拝者皆の**心からの祈り**がささげられています。**祈りを金の鉢に一杯に入っている香**とされています。値段の高い香、安い香いろいろあるでしょう。しかしどれも金の鉢に入っている香とされています。

どのような香であろうとも、神は私たちが香をたいてささげることを喜ばれるのです。親は幼い我が子の言葉にならない片言でも、しゃべってくれたことを喜びます。**愛の神**もそれがどんなに**貧しくつたない祈り**であろうとも、私たちの祈りを**金の鉢に盛られた香**としてお喜びになる方だと言われているのではないのでしょうか。どんなにつたない祈りでもよいから、絶えず愛の神と小羊に捧げていきたいものです。私たちの日々の生活において、**賛美と祈り**を神と小羊キリストに捧げることの大切さを、再確認いたしましょう。

祈ります：神さま。み言葉を感謝します。ヨハネは激しく泣きました。しかし十字架の傷痕を身におびた小羊が、あなたの右の手から大事な巻物を受け取りました。あなたが初めに非常に良いものとして創造されてこの世界を、私たちが今日このような世界にしてしまいました。しかしあなたは終わりをきちんと締めくくってくださるお方です。神さま、一日も早くその終わりを現してください。私たちの罪を清めて下さい。そして、日々に祈りと賛美をささげつつ、あなたの御心の一端を行う者にして下さい。この祈りを神の小羊イエス・キリストの御名によって祈ります。　　アーメン